

J A 越後ながおか

これまでの実践内容と成果

1. 農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けた取り組み

○商品価値の高い求められる米「エコ・5-5米」の生産

農薬と化学肥料を抑えた環境にやさしい米づくり「エコ・5-5運動」に、管内総作付面積の6割に相当する3,116㌦の大規模で取り組んでいます。環境保全、食の安全・安心、品質管理、安定供給などそれぞれの面で年々レベルを上げながら、商品価値の高い米を作り、ブランドの確立を図っています。



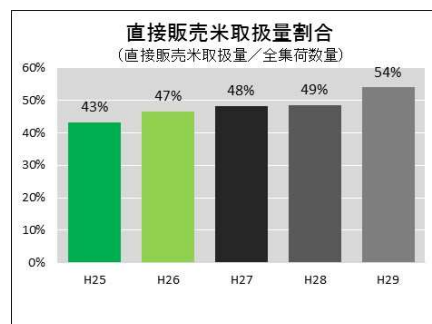
○越後ながおか米のブランド力向上とPR

米の産地間競争が激化するなかで、エコ・5-5米を中心とする越後ながおか米は高く評価されており、毎年売り先の100%確保を達成しています。また、越後ながおか米を全国へPRするため、全国の各種米コンテストに出品しています。平成29年度は「お米日本一コンテスト in しずおか」での最高金賞、「大阪府民が選ぶ“いっちゃんうまい”米コンテスト」での最優秀賞など、数多くの荣誉ある賞に輝いています。



○米の販売力強化

米の販売については、ブランド力向上と営業力の強化に取組み、従来の系統販売（JA全農等へ販売を委託する方法）メインの状況から、直接販売の割合を年々増加させています。県内JAの直接販売比率は平均28%ですが、当JAの割合は54%となっています。直接販売を行うことで、平成28年産エコ・5-5コシヒカリ（1等米）では1俵あたり843円の生産者手取額増加につながりました。



○枝豆・里芋の産地化

当JAでは、枝豆と里芋を主要園芸作物として作付けの拡大を図っています。長岡産枝豆「一寸法師」のブランド化や販路拡大、PRに力を入れています。枝豆については、平成26年度から29年度で、作付面積が約2倍、販売金額が約3倍にアップしました。平成29年度には園芸流通センターを稼働し、枝豆と里芋の共同選別を開始しました。選別から出荷までの作業をJAが行うことで生産者の負担を減らし、生産量の増加と産地化へつなげています。



○地域農業の持続的発展を支援

意欲ある農業者の支援と農業の発展、農村および地域の活性化のため、平成 27 年に元気な農業応援積立金を設立しました。平成 28 年には、第 1 号として山本地区枝豆共同栽培組合へ若手後継者育成のための支援を行いました。現在の積立額は 1 億円となっており、今後も同制度を積極的に P R し、地域農業の発展につなげていきます。



2. 地域の活性化に向けた取り組み

○子どもたちに食と農の体験の場を提供

毎年、青年部が中心となって「夏休みアグリスクール」を開いています。野菜の収穫や農産物加工などを体験しながら、未来を担う子どもたちに食と農の大切さを感じ取ってもらっています。また、管内の小学校 34 校で行っている学校教育田や、子ども向けの収穫体験・料理教室といった食農教育活動に力を入れて取り組んでいます。



○食と農、生産者と消費者を結ぶ市民交流施設「e-ne」

生産者や J A と一般市民との交流を深めるために、平成 27 年度、なじら〜て東店に市民交流施設「e-ne」を併設しました。女性部による郷土料理教室やお菓子づくり教室、地元農産物による味噌づくり教室など各種催しを開催し、多くの方からご利用いただいています。



○支店を拠点とした活動で地域に貢献

各支店では、支店協同活動や地域交流活動として、町内会・地区コミュニティセンターや学校等と連携しながら、組合員や地域の皆さんと一緒に活動しています。地域行事に加わったり、参加者同士の交流につながる催しを行ったりなど、地域と密着した幅広い活動をしています。



自己改革完遂に向けた取り組み

中期計画で掲げた自己改革実践項目の進捗管理を徹底するとともに、取組みの内容を対外広報誌等で積極的に組合員・地域に向けて発信していきます。